

健康産業新聞

THE HEALTH INDUSTRY NEWS ©UBMメディア株式会社 2013

第1470号

発行所 UBMメディア株式会社
本社 ●〒101-0044 東京都千代田区
飯沼町1-8-3 神田91ビル
☎03(5296)1011 〆 FAX 03(5296)1010
◆年間購読料21,000円(消費税込み)
〈郵便振替00190-1-20833〉

第5回医療・介護分野に特化した食品展示会&セミナー
メディケアフーズ展2013
東京ビッグサイト西4ホール 2013年2月19日(火)・20日(水)
詳しくは www.medicarefoods.com
TEL 03-5296-1009 FAX 03-5296-1018
●出展予定製品 介護食・嚥下食・宅配食・医療食・
栄養調整食・機能性素材など

サプリ支出、12年は4%増で回復 総務省家計調査、50歳以上の利用中心

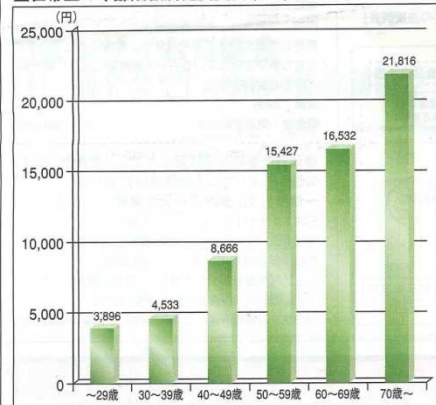
【昨】年の健康食品支出額が前年比4.4%増とプラスで着地したことが、総務省が1日に公表した2人以上の世帯における家計調査報告でわかった。震災影響で11年は前年比4.1%減と落ち込んだが、10年とほぼ同水準まで回復。東日本の健食支出も好転、通販王国の九州や、健康産業振興の機運が高まる沖縄も好調だった。世帯主の年齢別にみると、サプリメント剤型は50代以上の購入が多いとの実態も鮮明になった。

50歳以上で支出の75%

クロレラやアロエなどサプリメント剤型の健康食品を対象とする「健康保持用摂取品」(※定義は右下参照)の12年の支出合計は1万4,447円。前年比4.4%増と伸長した。10年の1万4,434円と比べると0.1%増となり、この5年で最高額を記録した。

なお年間支出額は、総務省統計局が1日に発表した2012年12月分の家計調査結果

■世帯主の年齢階級別健食支出(12年トータル)



■2012年 地方別健康食品の支出累計

地域	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
支出額(円)	16,573	13,318	14,088	13,317	11,893	14,779	18,051	12,134	16,951	14,326
伸び率(%)	29.4	38.0	10.2	13.4	-20.8	-10.6	6.5	-1.6	15.3	10.8

を踏まえて、各月の健康食品支出を単純合計したもの。50歳以上の支出は7割を占める結果となった。

健康食品支出は08年秋のリーマンショックの影響を受けた09年に3.3%減となったが、高齢化に伴う健康志向の高まりなどを背景に、10年は12.5%増と大きく伸長。この勢いが続くと思われる11年3月に東日本大震災が発生、通販チャネルの広告自粛などもあり、11年トータルは4.1%減となったが、12年は再び成長軌道に乗った。

同調査における「健康保持用摂取品」は、錠剤、カプセル、顆粒などのサプリメント剤型が対象。パルティンやゼリー、機能性飲料などは除外されている。近年はこうした一般食品に近い機能性食品・飲料が人気だが、2人以上世帯ではサプリメント剤型の支持率も回復していることが調査から示された。

支出額トップは「中国地方」

地域別の健食支出累計を

東日本、九州、沖縄など好調

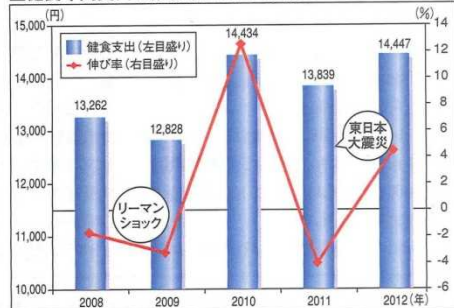
みると、震災影響で11年に伸び悩んだ「東北」が前年比38%増と回復。「北海道」(29.4%増)「関東」(10.2%増)も2ケタの伸びとなり、東日本地域で健食支出が旺盛だったようすがうかがえる。「北陸」「九州」「沖縄」もそれぞれ2ケタ増だった。

一方で「東海」と「近畿」の苦戦が目立ち、2ケタのマイナスとなった(左下表)。

支出額ベースで比較すると、トップは「中国」の1万8,051円で全体平均を大きく上回る。伸び率は2ケタには届かないものの、6.5%増と堅調だ。通販王国の「九州」が1万6,951円で2位、フード特区で注目の集まる「北海道」が1万6,573円で3位。2ケタ減となった「近畿」も支出額ベースでは1万4,779円で関東や沖縄より多く、全体では4位となった。健食支出には地域差があることが調査から読みとれる。

世帯主の年齢階級別にみると、左のグラフの通り、年齢が上昇するたびに健食の年間支出は増加している。50歳未満が1万円を下回るのに対し、50歳以上は平均支出額より多い。70歳以上は2万円超え

■健食年間支出の推移(2人以上の世帯)



で、最も支出の少ない30歳未満の5.6倍を健康食品に費やしている計算になる。調査が対象とするサプリ剤型の購入世帯は50歳以上がコア層となっているといえそう。

家計調査は全国約9,000世帯を対象に、収入・支出、貯蓄・負債などを毎月調査。景気動向を把握するための基礎資料として活用されている。なお1人暮らし世帯を加えた「総世帯」の家計調査報告(2012年平均)は19日に発表される。

■「健康保持用摂取品」の定義

栄養成分の補給など保健・健康増進のために用いる食品であって、錠剤、カプセル、顆粒状、粉末状、粒状、液(エキス)状など通常の医薬品に類似する形態をとるもの。アロエ、青汁、高麗人参、酵母食品、梅エキス食品等。

本号の特集
主な記事
■健康・美容飲料/ヒット商品続出で飲料受託7割が増収…7～17面
■ミネラル/ロコモ対策で需要拡大……………18～24面
■オリーブ/欧州、オリーブの健康強調表示を承認…25～27面

ニュース(2～6P)/業界短信(2、5P)

健康産業新聞HP/ <http://www.kenko-media.com>

高周波温熱とプロビタミンC併用 脂肪滴の抑制効果、確認

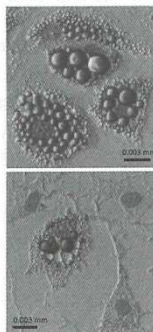
大阪物療大チーム

大阪物療大学保健医療学部(大阪府堺市)の三羽信比古教授と美容機器メーカー・(株)インディバ・ジャパン(東京都目黒区)の研究チームはこのほど、皮膚深部まで温熱を到達させる0.42MHzの中波を用いたCRet温熱装置および、脂肪の燃焼に有効なプロビタミンCのAPSとの併用で、ヒト脂肪細胞での脂肪滴減少効果を確認。その研究発表が、英国の国際学術誌『国際温熱療法誌(インターナショナル・ジャーナル・オブ・ハイパーサーミア)』1月号に掲載された。

研究チームでは、通常のビタミンCよりも活性持続性に優れたプロビタミンC「APS」とインディバ社の「CRet体深部温熱装置」を併用し、脂肪滴の抑制からセルライトの予防治療、メタボ症候群の防御効果を調べた。プレ試験では温熱単独、

プロビタミンC単独では、ともに脂肪滴抑制効果は十分でなかったが、併用することで脂肪滴抑制に著効を発揮することを確認した。臨床試験では、32~42歳の被験者3人を対象に、CRet体深部温熱装置を15~18回、2~4カ月間適用。試験期間中、被験者には従来通りの生活を継続してもらい、施術は1回当たり、背面20~30分間、腹部20~30分間を共通して温熱施術した。その結果、体脂肪率は22.0~38.4%だったものが、試験後4.6~8.7%減少。ウエストは87.0~90.3cmから、試験後8.5~14.8cm減少。BMIは23.1~26.1から、試験後1.9~4.37減少と、被験者全員が3つの指標共に有効性が認められた。同結果から、CRet体深部温熱によって胴体部分における脂質代謝が亢進したことが確認された。

三羽教授は今後、マイナス電荷の性質を持つAPSとイオントフォレシス装置のマイナス電極端子を併用し、同種電荷による電気的な反発力を利用して、皮膚表面からさらに皮膚深部へとAPSを導入。さらにCRet体深部温熱装置を適用して体温を上昇させ、毛穴拡大と血管拡張を介し、APSの層の体深部浸透も試行中。これら新手法により、メタボ症候群の改善に貢献していきたいとしている。



脂肪滴を多く蓄えた脂肪細胞(上)とCRet温熱装置とプロビタミンC併用で脂肪滴を減らした脂肪細胞(下)

効果が確認された。また、プロビタミンCのAPSは、通常のビタミンCよりも活性持続性に優れた。この併用法はセルライト、脂肪滴抑制で特許を取得しています。

また、特殊プロビタミンC導入に必要なイオン導入器として、浸透力、安定性を高めた「スーパービタリオン」を2月に発売いたしました。

生物資源「シルク」の能力

「インディバ+特殊プロビタミンC」の 併用法はセルライト、脂肪滴抑制で 特許を取得しています

特許取得の併用法では、特殊プロビタミンC導入後に「インディバ」の施術をすることで女性の敵セルライト、脂肪滴を抑制することができます。これは「インディバ」でしかできない施術であり、美容のみならず医療分野においても大きく貢献できる併用法と自負しています。

また、特殊プロビタミンC導入に必要なイオン導入器として、浸透力、安定性を高めた「スーパービタリオン」を2月に発売いたしました。



インディバER42



スーパービタリオン



株式会社インディバ・ジャパン

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷5-15-1
TEL 03-5768-8871 FAX 03-5768-8872
http://www.indiba.co.jp E-mail: indiba@symphony.plala.or.jp